

# 事業報告書

NRTC

			事業NO	
事業名	Referee Meeting (新メンター制協議)		事業主体	審判員強化育成事業
日時	2021年9月3日 20:00~21:51		会場	Web
責任者	本山 勝也	補助者	濱松 太一	
講師	なし(新メンター制説明は本山勝也が実施)			
参加者	強化: 本山、内田、橋口、岩永、坂本、宮田、黒澤、酒井、濱松、北村、諸原、川原、上野、草場			
テーマ	新メンター制に関する協議			
議事事項	<p><b>1 これまでのメンター活動について</b></p> <p>毎週webにて情報共有しているグループ、試合を見に行き行ってレクチャーしたグループwebやLINE等でのやりとりのみのグループと様々であったが、全体的には、コロナ渦の中で対応に苦慮している様子であった。</p> <p><b>2 新メンター制について</b></p> <p>コロナ渦の中で何かできないことがないか？ということをもとに新たに地区ごとにグループを組んで、アカデミー生2級昇格に向けて取り組んでいくこととなった。</p> <p>長崎リーダー 坂本 県央リーダー内田or橋口 県北リーダー 本山</p> <p><b>3 意見交換(メンター制)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区ごとの単位となれば、できることは増える。</li> <li>・例えば、アカデミーと強化審判員を同日同会場に割り当ていただくようにその都度、アカデミー生と日程調整し、割当担当者に相談していけばどうか？</li> <li>Webではなく、顔を合わせてアドバイスできるし、信頼関係の構築に近づく。</li> <li>・強化審判員が背中を見せて指導していくべき。これまでの自分たちも先輩の背中を見ながら成長してきた。</li> <li>・アカデミー生は、今のNACに何か疑問はもっていないだろうか？本音を聞いてみたい。</li> <li>・アンケートを取ったうえで、アカデミーだけのミーティングを開催してはどうか。</li> <li>・アカデミー生が何を求めているか聞く環境があってもいい。学校現場では学生が学校を評価する方法があるが、良い方法として機能しているのか？</li> <li>・後輩の指導は現場主義が最良。課題はあるが、それができる環境を考えていくべき。</li> <li>・NRTCの方針をそのまま実施するだけではなく、強化審判員がそれぞれに何ができるかを考えて、実現していくことが求められる。中間管理職と言われるまま実施だとダメになる。</li> </ul> <p><b>3 意見交換(その他)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状のNRTC研修体制について課題がある。強化審判員の審判スキルも様々であることからどこかで見たことある、聞いたことある講義内容についてはどう思うか？</li> <li>・仕事、家庭、自身の審判活動(トレーニングも含め)ある中で、会議回数も多く、時間も長い取り巻く環境によっては、現在のweb形式の研修等は、優先順位を下げてしまう場合がある</li> <li>→研修を作り上げる側だけではなく、受講する側にも問題がある。学ぼうと思えば、どのような講義であっても学びがあるはず。しかしながら、言っている意見の意味は理解できる。</li> <li>・インストラクターに評価されるだけではなく、逆に評価し、具申するぐらいの気概があってもいいと思う。(同様意見複数あり)</li> <li>→アセスメントレポートに対する具申もあってもいいかと思う。参考に内容を咀嚼して自分流に取り入れていくというスタイルがインストラクターとの関係性も含め原則であると思うが。</li> <li>・研修についても、強化審判員が何がしたいか？を自分たちから発信して作り上げていく事が必要ではないか？時間をかけて研修を作り上げていただいている事から、何も意見せず、受講することに終始しているが、思い切って意見してもいいのでは？強化審判員</li> </ul>			

	<p>の立場として意見するのは良いことだと思う。企画会議もあるし。</p> <p>・より良い方向に進むための方策を模索しているという前提にたって、強化審判員としてできることを、NRTC内、メンター制で考えていこう。今までのように受け身だけではなく、時にはインストラクターやNRTC本部に意見することも必要。道を間違わないように方向性はきちんと理解したうえで活動していこう。</p>	
<p>所感</p>	<p>当初の予定を大幅に超えて意見交換ができた。</p> <p>メンター制については、地区ごとになったことから、新型コロナウイルス感染拡大の状況の中で実施できることをそれぞれのグループで模索していこうということになった。</p> <p>言うは易く行うは難しに尽きると思うが、一歩ずつでも前進できるよう動いていきたい。</p> <p>メンター制以外に関する意見交換に時間を多く割いた。忙しい毎日に追われながら、それぞれの審判員にも思うことがあるうようだ。意見を整理し、強化審判員がしっかりとした考えをもとに意見できる体制が必要となり、その一つがこのレフェリーミーティングになると感じた。</p> <p>アカデミー生の本音を聞き出したい。顔を合わせずになかなか本音は聞き出せないが、アカデミー生のためのミーティングを近日中に実施したい。</p>	
<p>文責</p>	<p>本山 勝也</p>	<p>2021/9/6</p>